

小牧市こども計画（案）に関するパブリックコメントに提出された意見及び市の考え方

NO	意見（原文）	市の考え方
1	両親が共にフルタイム就労者で、かつ祖父母等の近親者が近くに住んでいない、そのような核家族世帯が増えていると感じます。そんな世帯にスポットを当て、サポートの施策が充実することを願っています。	「基本目標 3 子育て家庭を支援します」に記載のとおり、子育てと仕事の両立支援の充実に努めるための取り組みを実施することとしています。
2	いわゆる鍵っ子家庭がどのくらいあるか、その面の調査があればと思いました。	今後の意見聴取やアンケート調査等を実施する際の参考とさせていただきます。
3	アンケート結果「放課後の過ごし方について」で、「自宅で自由に過ごす」の類が高割合ですが、その時、家に大人がいるのか、も尋ねていただきたかったです。	「No. 2」の回答のとおりです。
4	両親は仕事で不在のため、留守番というお子さんもおられるはずです。その間に家事の一部を担うこともあるでしょう。兄弟での留守番であれば、相互にヤングケアラーということにもなるでしょう。 そのような家庭にとって、放課後児童クラブは有力な社会資源と思います。しかし児童クラブ利用が、学年が上がるにつれて減少している実態を見ると、相応の子が鍵っ子に転じているようにも感じます。 そのようなお子さんには、児童館、こども食堂、学校部活動、塾やスポーツ等クラブ、図書館等の街中の施設、地域の友達と遊ぶ、等が有効な過ごし方になると思います。児童館を開館時間延長等、更に充実させ、そんな子たちの生活の場、友達をつくる場になってもらえればと思います。	放課後児童クラブは高学年になるにつれ利用児童数が減少していますが、引き続き待機児童が発生することがないよう、活動場所を確保するとともに活動内容の充実に努めます。また、児童館はこどもに寄り添い、安心して過ごすことのできる居場所づくりに今後も努めてまいります。
5	新規取組「中高生の居場所づくり」に期待します。児童館が中高生にも利用しやすくなることはとても有意義なことと思います。アオハルナイトなどの取り組みは素敵に思います。	中高生利用の促進に向け、今後取り組みを充実させていきます。
6	共にフルタイム就労の夫婦にとって、子育てはとても負担の大きい仕事です。これに対するサポートが貧弱では、どちらかの退職職が余儀なくされるかもしれません。それよりも、ディンクスを選択する夫婦が増えることが気掛かりです。または自分の職業を守るため、結婚しないという選択が増大すること考えられます。これらに留意した包括的な施策が展開されることを期待します。	「No. 1」の回答のとおりです。
7	〔母親の就労意思について〕 母親の就労意思が高いとありましたが何故就労意思が高いのかの記載が無いのが気になります「就労意思が高い」＝「働きたい」と思い込んで子どもを預けられる環境を整えるのは違っている気がします 本当は子育てに専念したいのに「経済的な理由で働かざるを得ない」母親も多いのではないのでしょうか であれば経済的な支援をしてほしいと思います 実際私の周りではそのような方が多い印象です 小さな子どもは他人に預けられるより母親が近くに居る事の方が大切です 先ずは母親が働く環境ではなく子育てに専念できる環境を整え欲しいです	「基本目標 3 子育て家庭を支援します」として「子育てと仕事の両立支援」、「相談と情報提供」、「経済的支援策」の充実に向け各施策に取組み、子育て家庭が安心して子育てできる環境整備に努めます。

小牧市こども計画（案）に関するパブリックコメントに提出された意見及び市の考え方

NO	意見（原文）	市の考え方
8	〔ガソリン代高騰について〕 ガソリン代も高騰し今後も高騰し続けるようですガソリン代の補助クーポン等がある自治体も出てきているので是非交通の便が悪い小牧市でも取り入れていただきたいです	現在、本市におけるガソリン代補助の予定はありませんが、利用しやすい公共交通サービスの提供に努めます。 また、妊産婦の外出支援として無料で巡回バスに乗れるフリーパスの配布をしています。
9	〔給食について〕 最近給食の味が変わってきたと子ども達が話しているのを聞きました デザートが異様に甘くなった・ベーコンが変な味がして食べられなくなった等です 量についてもお米は多いがおかずが少なすぎる酷いときはメインのおかずが一口ぐらいしかない等です ネットでも『学教給食は刑務所より酷い』と話題になることが度々あります 大人には「20分以上かけて食べましょう」と啓発しているのに学校給食は食べる時間が10～15分しかないようです 質についても農薬をたっぷり使った外国産の小麦をつかったパンや麺は止めていただきたいです生産されている国の人でも食べず余った食材を日本の子ども達に食べさせているような気がしています 本当に止めていただきたいです	学校給食の献立については、小中学校のPTA、校長、栄養教諭等で組織する「小牧市学校給食献立作成委員会」で議論した上で作成しています。また、給食用物資については「小牧市学校給食用物資選定委員会」において使用する食材を複数試食するなどして経済的かつ良質な学校給食用物資を選定しています。 今後も児童生徒が適切な栄養の摂取をすることによって健康の保持増進を図られるよう安心・安全な給食を提供してまいります。 なお、給食時間は配膳・片付けを含めますが小学校で45分、中学校で40分です。
10	〔化学物質過敏の子に配慮を〕 最近臭いが非常にきつく取れにくい柔軟剤が発売されており学校でも同じ教室にいと頭痛や吐き気など体調不良となる子がいます 使用している本人は嗅覚が麻痺するためどんどん臭いがきつくなっていきます 学校や公共施設でポスターなどで「誰も教えてくれないし気付いていないかも知れないけどあなたの柔軟剤で苦しんでいる人がいます」などの啓発をお願いしたいです	本市においては市ホームページで「香害」について周知啓発するとともに、消費者庁、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、環境省が五省庁連名で作成した「香害」のポスターについても同ホームページからダウンロードできるようにしております。香害が原因となって「化学物質過敏症」を発症の方がおられることを踏まえ、引き続き、周知啓発に努めてまいります。
11	〔外国人居住について〕 小牧市では外国人居住者がどんどん増えているのがとても不安です 「誰も取り残さない」と聞き心地の良いフレーズですが結局どんどん日本人が住みにくい町になっています 子どもの学校では外国人は日本語が喋れないのでPTAは免除 結局日本人母の負担が増えています 産んで育てて働いてボランティアもしなければいけない日本人の母親は本当に大変です 休みの日ゆっくりしたいのに大音量の音楽をかけながら道路で遊んでいるもしくは家から漏れ聞こえてくる集合住宅で煙りをもくもくたてながらバーベキューをいっている 自分たちのコミュニティを作り始めている等です 日本人が働いて納めた税金を外国人への補助や保護に使うのは学校給食やその他の問題が解決しそれでも税収が余ってからにして欲しいです まずは日本の子ども達や大人、高齢者を何より優先して欲しいです 小牧市の人口が減っているから外国人で増やすのではなく日本人が安心して子どもを産めるよう経済的環境などを整え日本人が増える町にしてほしいと切に願っています	誰もが安心して子どもを生み育て、すべてのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができるこどもまんなか社会※の実現に努めます。 ※すべてのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会

小牧市こども計画（案）に関するパブリックコメントに提出された意見及び市の考え方

NO	意見（原文）	市の考え方
12	小牧市内の民間1保育施設の責任者として、今回のパブリックコメント募集にあたり、大変短い検討期間にもかかわらず、愛知県が先に策定しなければならない「愛知県こども計画 はぐみんプラン2029(仮)」は、県の次期計画と繰り延べになり、愛知県は、当面、国のこども家庭庁の指導による「自治体こども計画策定ガイドライン」によることなく、厚生労働省指導による「令和5年3月のあいちはぐみんプラン2020」のまま継続するとの発表にもかかわらず、実施主体の小牧市は、「小牧市こども計画(案)(令和7～11年度)」を発表し、この度、パブリックコメント募集に至ったことを感謝し、お礼申し上げます。 「小牧市まちづくり推進計画」との整合性や「あいちはぐみんプラン2029」に採用できない統計数値の「私立幼稚園私学助成預かり保育事業実施利用人数」や「小牧市委託事業一時預かり事業(幼稚園型)実施利用人数」、また、今回の素案の6頁にあるように、合計特殊出生率は、昭和10年、県では、1.42、令和4年、県では1.44とほぼ同じにもかかわらず、小牧市の出生率は、令和4年は、5.8、出生数は、878人と減りましたが、人口減にもかかわらず、国のこども子育て支援法による「満3歳児以上就学前児童保育無償化政策」以降は、令和2年901人に比べ、令和4年の878人は、微減にとどまりました。 マスコミ報道にもありますように、「市町村のこども政策」は、「住民票所在市町村」と「保護者の勤務先所在市町村」により、合計特殊出生率による政策ではなく、「実出生数」と「住民票取得人口」と「他市町村の勤務先統計数」により、待機児童政策が大きく変容し、厚生労働省の人口研の出生数発表は、毎年過去30年にわたり、年度末下方修正を実施しており、合計特殊出生率による政策は破綻しており、また地方、都市部にかかわらず、認可保育所が突然閉園せざるを得ない実情が、加速しております。 全国的に「量の確保は完了」しており、市民は、「量より質の高い保育施設を求めている現実」があり、「厚生労働省の児童福祉政策」から「こども家庭庁のこども園推進に現れるような、保育の質の向上が必須」の時代になり、単に就労支援施設を拡大(量の確保)しても、市民は、入所したまらない現状と母親の就労が実現できない公立幼稚園(開所時間が短く、給食提供がなく、長期休業日預かり保育時間が短い)の閉鎖統合やこども園移行が、全国的に当たり前になりました。 第1子の子育てにおいて、フルタイム就労しながら、初めての子育てをすることは、ワンオペ育児問題に代表されるように、とても、母親の精神的負担が大きいです。入園時は、育休後で、第1子1号認定入園希望が多く、短時間就労であれば、私立幼稚園の質の高い保育と一時預かり事業(幼稚園型)で、十分対応出来、第2子誕生時も、転園することなく、また、長期休業日も含め対応出来ているので、市税を新設保育園(いつ閉園せざるを得ない園舎新築)に投入するより、私立幼稚園の一時預かり事業(幼稚園型)の充実と確保の難しい保育教諭をすでに多く雇用している私立幼稚園に、現行の国の給付上限、年間1,024万円を超える費用を小牧市が負担していただければ、市民の希望される質の高い保育環境(新設園は、平均保育施設勤務年数が低くなりやすく、また、小牧市立保育所のパート職員比率49%に現れているように、正職員よりパート職員が多くなりやすく、保育の質の担保が難しい)と就労支援が一体で、提供できるようになります。また、小牧市は、愛知県唯一、2号3号認定の0～2歳児の保育料を無償化されました。すでに、国の世帯収入ランク別保育料負担額に対し、相当額の小牧市税により、保育園保育料は、小牧市の世帯収入ラング別負担額まで補助しており、さらに、無償化しましたから、小牧市税納税者からみて、2号3号認定児のみ優遇し、1号認定児には、小牧市は対応しないのは、不条理であるとの意見も出ています。 いろいろ個別には、素案の修正を依頼したいところですが、国への報告期限もあり、今回の「小牧市こども計画(5か年)」は、当初計画として国に報告するが、令和11年度までの間に、修正策定し報告する旨を明記していただき、国への報告としていただきたくお願い申し上げます。 「第3期小牧市子ども子育て支援事業計画」の途中で、こども家庭庁が発足し、「令和4年6月こども基本法」成立、「令和5年12月こども大綱」成立、「令和6年5月こどもまんなか実行計画」成立と法律がめまぐるしく改定され、「令和6年4月から改正障害者差別解消法」も施行され、自治体は、努力義務から法律遵守義務に変わりました。「小牧市まちづくり推進計画」との整合性には、市役所内すべての部局とのすり合わせや市長、市議会の承認や予算編成も必要になり、完璧な5か年「こども計画」を令和7年4月に発表することは、困難を極めますから、あくまで、当初計画、骨子としていただき、「こども家庭庁設立理念のこども真ん中」や、「こども大綱」、「こどもまんなか実行計画」、「改正障害者差別解消法」を守った「小牧市こども計画(当初計画骨子)」を発表し、後日、修正していただきたくお願い申し上げます。	「小牧市こども計画」は、「こども基本法」（第10条第2項）に基づく「市町村こども計画」として位置づけ、本市におけるこども施策全般に関する統一的な新たな計画として策定します。 また、「子ども・子育て支援法」（第61条）に定める「市町村子ども・子育て支援事業計画」として、様々なこども・子育て家庭の状況や各事業の利用状況・利用希望を把握し、子育て支援とその対策をとりまとめ、さらに、「次世代育成支援対策推進法」（第8条第1項）に定める「市町村行動計画」、「子ども・若者育成支援推進法」（第9条第2項）に定める「市町村子ども・若者計画」、「こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」（第10条第2項）に定める「こどもの貧困の解消に向けた対策についての計画」を含めます。 なお、定期的に進捗状況の検証を行い、社会情勢の変化などに応じて計画の必要な見直しを行います。